

荒瀬ダム撤去に伴う「地域づくり部会」報告

第 1 回

日時：平成 27 年 9 月 30 日（水）18：00～20：00 場所：八代市坂本支所 2 階会議室

議論のテーマ

荒瀬ダム撤去に伴う地域づくりを検討していくために、坂本地域の現状を確認し、「(1) 坂本地区をどんな地域にしていきたいか」、「(2) 地域づくりを進める上での問題点や地域づくりに活かしていきたい資源」のテーマでグループワークを行なった。

<データにみる坂本から>

高齢化と人口減少が続いているが、地域資源を活かした地域づくりを進めていくことによって、川や山の恵みに育まれた本来の坂本の豊かな暮らしを取り戻したい。

<全体の共通認識として>

川辺の暮らしの価値を見直し、生活を支える豊かな川を取り戻して「宝の川」を再生することによって若い人や外からの人も参加しやすい「ものがたり」を創る。

第 2 回

日時：平成 27 年 11 月 26 日（木）18:00～20:00 場所：八代市坂本支所 2 階会議室

議論のテーマ

第 1 回の議論を踏まえ、①ボートハウスの活用とソフト事業検討チーム、②川を活かした坂本らしい暮らし・仕事検討チーム、③まちの名所ネットワーク検討チームの 3 つの班*に分かれて、「(1) 地域資源の活用方策（地域づくりのメニュー）の検討」、「(2) 事業化に向けた課題の検討」のテーマでグループワークを行なった。*参加メンバーの希望をもとに編成

<事業化に向けた課題>

- 1 班 ボートハウスの活用とソフト事業検討チーム
 - 課題 1：基盤整備の必要性
 - 課題 2：川を舞台にした遊び方の研究
 - 課題 3：既存施設の役割分担
- 2 班 川を活かした坂本らしい暮らし・仕事検討チーム
 - 課題 1：企画・運営組織づくり（事務局機能の強化）
 - 課題 2：漁協の協力と理解
 - 課題 3：魅力ある資源の発掘と活用方法
- 3 班 まちの名所ネットワーク検討チーム
 - 課題 1：情報発信力の強化
 - 課題 2：町内住民の参加意識を高めること

<各班の共通の課題として>

自治協議会の事務局機能の強化 充実や拠点づくり、事業推進にあたっての若手の参画や企画運営体制、協働する行政の理解と支援などがあげられている。

第 3 回

日時：平成 28 年 1 月 14 日（木）18:00～20:00 場所：八代市坂本支所 2 階会議室

議論のテーマ

第 2 回の議論を踏まえ、3 つの班毎に、整理された活動メニューを再確認し、優先して行なうメニューの進め方、時期や主体、推進にあたっての課題を議論するとともに全体目標を検討した。

<先導事業>

- 1 班：川を活かした川遊びを行う団体づくり
- 2 班：〇〇さんちのふるさと食レシピづくり（人材バンクづくりを兼ねる）
- 3 班：全地区から参加し、若手も参加できる 100 人委員会で企画案づくり

<目標>

- 1 班：宝の川でふるさとづくり
- 2 班：宝の川と川を活かしたみんなの里づくり
- 3 班：みんな〇〇〇で支える元気な坂本

<次年度にむけて>

事業の実施に向けた地域の事業実施体制づくり

■まちづくり基本計画策定に向けたメニュー（案）

| 目標 | テーマ | まちづくりの展開 | まちづくりのメニュー | 内容 |
|--|--------------------------|--|------------------|---|
| 宝の川の再生 川のある暮らしの価値の見直し、生活を支える豊かな川を取り戻す | ① ボートハウスの活用とソフト事業検討 | ボートハウスの利活用 ↓ 川へのアクセス ↓ 川を活かしたイベントの研究 ↓ 既存施設の有効活用 | ①球磨川へのアクセス手段の確保 | ボートハウスに近接した川へ降りる階段・斜路の整備 |
| | | | ②ボートハウスの利活用の検討 | 加工所、宿泊所、季節限定のレストラン、カフェなど川遊びの拠点化 |
| | | | ③川を活かしたイベント等の研究 | 川遊び・リバーボートなど |
| | | | ④川遊び講座 | 釣り、ダウンリバー、沢上り、河川環境 等 |
| | | | ⑤あゆ梁づくり | * 計画進行中 |
| | | | ⑥クレオン、さかもと館との連携 | 宿泊・入浴・食事・遊びの場の連携 |
| | | | ⑦葉木駅との一体化 | 葉木駅との一体整備 |
| | | | ⑧既存施設の有効活用 | JR 駅などの拠点化 |
| | ② 川を活かした坂本らしい暮らし・仕事検討 | 空き家・遊休施設の調査 ↓ 人材データバンクづくり ↓ 空き家・遊休施設の活用策 ↓ 内への情報発信 | ①人材データバンクづくり | 釣り、農業、林業、狩猟、料理、歴史、文化 等 |
| | | | ②空き家・遊休施設の調査 | 再利用可能な家屋や施設を調査 |
| | | | ③空き家・遊休施設の活用策検討 | カフェやチャレンジショップ、ゲストハウス・民泊など |
| | | | ④地域ブランド開発 | 米のブランド化、水（さくらの雫）のブランド化、ぼたもち、お茶、漬物など |
| | | | ⑤移住者等の受入れ体制づくり | 住居の確保、休耕地や生活基盤の準備 |
| | | | ⑥食メニューの開発 | 坂本に人を呼ぶ魅力ある食の提供（素材・料理人発掘） |
| | | | ⑦伝統芸能・行事の継承 | 棒踊り、七夕綱飾りづくりなどの保存・継承・活用 |
| | | | ⑧地域情報の情報発信 | 坂本のイベント、まちづくり等への参加意識を高める |
| | ③ まちの名所ネットワーク検討 | 観光資源の発掘・開発 ↓ 資源を活かしたルートづくり ↓ 事務局機能の強化 ↓ ものがたり（PR戦略）づくり | ①観光資源の発掘・開発 | 資源調査とリスト化、マップ化 |
| | | | ②資源を活かした周遊ルートづくり | トレイルラン、フットパスルートなど |
| | | | ③人材データバンクの活用 | 人材を活用した農林漁業などの体験メニューづくり |
| | | | ④ものがたり（PR戦略）づくり | 企画・編集、情報発信の方向性（コンセプト）の検討 |
| | | | ⑤外への情報発信 | イベントや移住、四季折々の情報をHP、SNSでの発信 |
| | | | ⑥事務局機能の強化 | ダム撤去までの短期企画や坂本でしか出来ない企画を作る企画チームや情報発信チームなど自治協の強化 |
| | | | ⑦応援団（ファンクラブ）づくり | イベント開催、情報発信などの外部協力者づくり |
| | | | ⑧球磨川川下り | ボートハウス→道の駅→坂本支所（坂本駅） |

〈参考〉地域づくり部会についての第11回地域対策協議会及びその後の部会での意見

- ・ダム撤去を求めた原点は清流球磨川の復活を基軸とした坂本の地域づくりであり、球磨川の豊かな魚が地域及び県内外の人を呼び込むことにつながるということにあった。地域づくり部会においてもそのことを念頭に置きつつ議論の一部を進めてもらいたい。
- ・地域づくり部会のメンバーについて現在の構成で固定化することなく、議論の進展に応じ色々な分野の方々が参加できるような柔軟な対応をお願いしたい。
- ・地域づくりの検討を進めていくに当たり、財源及び制度上の課題も出てくると思われるため、国・県・市といった行政機関のフォローをお願いしたい。
- ・現在の地域づくり部会での議論は、ダム撤去を求めた原点ともいうべき球磨川再生とはいささか論点が異なった話題が多いように思われる。現在の話題も大事なことは思うが、アユが自然遡上できるようになるにはどうすれば良いか、ダム撤去を求めた真の意味での球磨川再生についても議論していきたいという思いがある。